

施設名	旧吉野川橋								
所在地	高知県 大豊町								
管理者等	大豊町								
施設種類・分野	道路	橋							
施設概要 (明治期との 関連含む)	<p>明治時代中期、国道32号は全通したものの、吉野川の南岸と北岸を連絡するためには船に頼るしかなかった。渡し船は、人馬や荷物の乗下船による煩わしさや、時間・労力の消費だけでなく、出水期には長期の船止めもあったことから、高知県では、この不便を解消するため、吉野川橋の架設を決定し、明治43年9月から工事に着手した。長さ約58間(105m)のプラット式と呼ばれる近代的なもので、四国では最新式のものであった。総工費は51,000千円とされている。(文献1より引用)</p>								
築造時期	明治後期			時期詳細	明治44年3月				
関連人物	-								
関連企業	-								
トピックス (特徴的エピソード)	<p>当時珍しかったセメントの粉が水の中でも岩のように固まる橋台工事は、莫大なセメントの使用量とともに一般住民を驚かした。(文献1より引用)</p> <p>旧吉野川橋の落成祝賀は、明治44年旧暦4月8日の大田山薬師祭りの当日に挙行され、近郷住民の人波に埋まるほどの盛況であったと伝えられる。これらの人たちの中には、「鉄の橋を見たい」といって弁当持参、わらじ履きで集まった者もあったという。(文献1より引用)</p>								
歴史的な遺産等の指定の有無等	-	選奨土木遺産(土木学会)	-	文化財(文化庁)	-	近代化産業遺産(経産省)	-	世界遺産(ユネスコ)	-
	その他の指定・認定		近代土木遺産(土木学会)						
その他 (関連資料、文献)	文献1:大豊町史 近代現代編								
管理者等のHP(URL等)	-								